

## 老会員一年生の述懐

釜石東 奥寺 正

かれこれ十年前も前よりロータリアンである友人から、ロータリーへの入会を勧められていた。

だが、零細企業の例にもれず、人手不足と陣頭指揮に寸暇なく、御断わりし通して来た。

しかし昨年春、ロータリアンである友人達から、もう歳なんだから、あまり仕事仕事と云わず、この辺でロータリーに入会し給えと勧められ、曖昧な返事をしている中に、入会手続をとられてしまった。

困った事になったと思つたが友人達の手前、否とも云えず、止むを得ず入会した。

最初は週一回の例会が気にかかり、仕事にブレイキをかけられたような重苦しい気持ちであつた。

それから半年は瞬く間に過ぎ去つた。その間各界の名士や会員の方々の有益なお話を聞き、善良な多数の友人を得、今更ながら入会して良かったと思ふようになった。

多忙な事は結構な事である、だが忙しいだけが人間の生活ではない事に気がついた。

「忙」という字は立心偏に亡と書く、心を

失うと書く、忙しい忙しいと駈足して、仕事一辺倒で生きていると心を失い、エコノミックスクアニマルといわれるようになる事に気がついた。忙中に閑が無ければならない。

忙中閑あり、忙中に閑をつくり、閑を見いだすことが、人間らしく生きる方法である事を知つた。

週一回の例会は、今では有難い忙中の閑であり、心の支えになる有意義な集りであることを改めて認識した。

例会は人間性の回復の場であり、例会は楽しい友情の集いである。

世の多忙な方々に、ロータリーへの入会をお勧めします。多忙な人程ロータリーが必要です。これは六十歳の老ロータリー一年生の述懐である。